

蘆花会通信

第10号

2026年(令和8年)

1月20日

特定非営利活動法人

蘆花会

編集発行人佐久間保明

<https://www.rokakai.com/>

蘆花忌の集いは残暑のあいま

昨年の蘆花忌の集いは予定どおり、九月二十日に開かれました。例年だとまだ残暑の厳しい日が続く頃でしたが、幸いにも朝から日差しがゆるやかな日となりました。早稲田大学名誉教授の中島国彦氏を迎えた講演会も、午後二時より無事始まることができました。思いましました。が、三十分ほどして小雨が降り始めたので、参加者には急遽梅花書屋の座敷にあがっていただきました。久しぶりに講演者と聴取者の距離が縮まり、やわらいだ雰囲気が生まれた感じがしました。

自然を見る——という題のもとと角川文庫を手にしつつ、本書中の気になる箇所についていくつも説明されました。序文となる「故人に」とは誰を指すのか不明で、「君」が必ずしも独歩に当たらないことを始め、年譜や地図を参照して当時の状況を再現しながら解説されました。戦時下に治安維持法で檢舉され敗戦直後の九月に獄死した悲運の哲学者である三木清が中学生の頃蘆花を読み、一高生になると『自然と人生』を持って武蔵野を散歩し粕谷近辺まで来たことが彼の『読書と人生』にあるとは興味深い指摘でした。

「おぼろ夜」の訪問者M君について早稲田中学教師の「風葦生」ではないかとの考証により、一燈園を主催した西田天香とのつながりを指摘する一方、「都落ち」などに見える「雲雀の歌」の連想から、大和田建樹作詞の小学唱歌をスマートフォンから歌声が聞こえるように操作されたのは、思いがけない注釈の応用ふうの披露でした。最後には参加者から複数発言が出てなごんだ空気が意義深いひとときとなり、終了後は幸い雨もやみ、ほどよい晩夏の日となりました。



(湯浅健夫撮影)

『みづのたはこと』の人間模様
右の題で数年前に粕谷の図書館で話をしたことがあります。それは本書中の「腫物」に登場する人物を中心に扱ったものでした。中野好夫氏が三部作の大著で、蘆花が自作広告に言う「恐ろしき説話」に該当すると指摘した一編です。それはお広という女性を中心に、戸籍上の夫である久太郎と戸籍上の子どもである兄弟から成り立ちます。蘆花が「戸籍上の」と特記する点が鍵であり、聾盲者のわけあり兄弟も見逃しません。彼らは蘆花が粕谷に移住しなければ会うことなかった極めて特異な人物群です。女性を莫連お広と呼び、夫をひささんと呼んで、障害のある兄弟とともに蘆花は注意を怠りません。そこに気をつけながら本書全体を読むと、いくつも発見があるでしょう。丁寧な再読が知的好奇心を喚起するゆえんです。

愛子忌の集いは

二月二十一日(土)

蘆花忌は残暑のなか、愛子忌は寒中のなかとなりますが、今年には表記の日に愛子夫人宅で、午後二時から集いを行なう予定です。

お話ししてくださるのは大槻慶子さんです。岩手県宮古のご出身で、高校生のころから『寄生木(やどりぎ)』を愛読されていました。今から十年前の蘆花忌の集いにいらつしやり、以後毎回熱心に参加されてきました。

現在は書店に勤めながら他の作品も熱心に読まれている若い読者の一人です。『寄生木』では実在の人物である同郷の小笠原善平に関心を持たれて、早くから種々調査を進めてレポートにまとめられました。東京にはわからない宮古での善平の動静などにくわしく、何より同郷人としての善平を語るにふさわしい話者と言えるでしょう。

世田谷蘆花祭も

雨天のもと

十月二十六日(日)には昨年と同じく蘆花公園で蘆花祭が開かれました。前回とは異なり小雨にみまわれたものの、特設の「徳富蘆花コーナー」には熱心な人々が訪れ、着色された写真を見たりガイドツアーに参加したりしていました。当日は朝早くから仁藤和夫さん、山本みさ子さん、馬場瑞穂さんが準備と対応に当たってくれました。あらためてお礼申しあげます。公園事務所の溝口さんにはパネル設置をはじめ多大なお世話を受けました。



* * *

『寄生木』は一九〇九(明治四二)年十二月の発行です。前年の九月二十日に小笠原善平は拳銃で自殺しました。満二十八歳でした。蘆花は彼

の死を知り急遽小説を書きおろして出版します。善平は縁談や昇進などに悩み多い青年でした。彼が初めて蘆花を青山に訪ねたのは一九〇三年四月です。陸軍少尉として日露戦争に従軍したのち、一九〇七年一月と翌年三月に粕谷の蘆花を訪ね、二度目の訪問が蘆花に会った最後となりました。蘆花はその翌年一九〇九年二月に宮古の善平宅を訪ねて墓参を果たし、彼の妹二人を世話するため粕谷に連れ帰ります。

* * *

「通信」の送付を停止ご希望の場合は左記までお知らせください。

☎ 090・1618・9659

✉ Sakumaxim@ezweb.ne.jp (佐久間)

正会員・賛助会員募集

【入会金・年会費】

正会員各 1,000 円

賛助会員各 500 円

【振込先】

三菱 UFJ 銀行王子駅前支店

特定非営利活動法人蘆花会

普通 0274264